

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和5年7月13日	場所	名護特別支援学校会議室	出席状況	評議員3名、校長、教頭、事務長 学部主事等7名 計10名
第2回	日時	令和5年12月14日	場所	名護特別支援学校会議室	出席状況	評議員3名、校長、教頭、事務長 学部主事等9名 計12名
第3回	日時	令和6年2月22日	場所	名護特別支援学校会議室	出席状況	評議員2名、校長、教頭、事務長 学部主事等10名 計12名

2 学校評議員に求めた事項

- (1)今年度の学校経営(概要)について
- (2)各学部・寄宿舍・支援部・進路指導部・環境整備部・保健安全部・保健室の取り組みについて
- (3)各学部授業、学校給食の試食(食育の取り組み等)
- (4)防災対策について
- (5)学校評価について
- (6)卒業生の進路状況について

3 学校評議員の意見

- ・ICT機器の活用について、どのような機器があるか説明をしてほしい。
- ・高等部の企業説明会はとてもよい取り組みである。
- ・各学部の取り組み(教育指導)については、適切な指導が行われている。
- ・雇用のあり方についての課題は、学校と同様福祉施設等でも感じる。
- ・高等部の地域での販売活動は名護市(関係機関)と連携できると思う。
- ・各学部工夫していて子どもたちがどのようにしたら力を発揮できるか考えられていると思う。
- ・卒業後も相談支援は継続するので、在学中から早めに連携して移行支援ができるようにしたい。
- ・連絡帳のデジタル化の取り組みなど、学校は、職員の働き方を考えている。
- ・障害者総合支援法の改正に伴う学校と福祉との連携が求められる。
- ・不登校支援について学区内の支援施設との関わりも必要である。

4 学校運営に反映した事項

- ①高等部における「デュアルシステム」を積極的に取り組んでいる。対応の企業も今後増やす予定である。
- ②各学部等の報告についての助言を通して、更なる教育活動の充実を図っている。
- ③地域清掃活動(公園、ビーチ等)、宇茂佐区との連携を行っている。
- ④支援部を中心に教育相談及び近隣高等学校の通級指導支援を行っている。
- ⑤連絡帳の活用について、働き方改革及び教育活動の充実の観点からデジタル化の検討を行っている。

5 課題その他

- ①不登校支援については、外部機関や各部署との連携が必要である。
- ②沖縄県特別支援教育研究会の事務局として運営を行うほか、外部専門家を招いた研修を充実させたい。
- ③高等の卒業後の就職先の開拓や北部地区の強みを生かした職業教育を行っていきたい。

令和6年2月26日

沖縄県立名護特別支援学校
校長 岡越 猛
(公印省略)